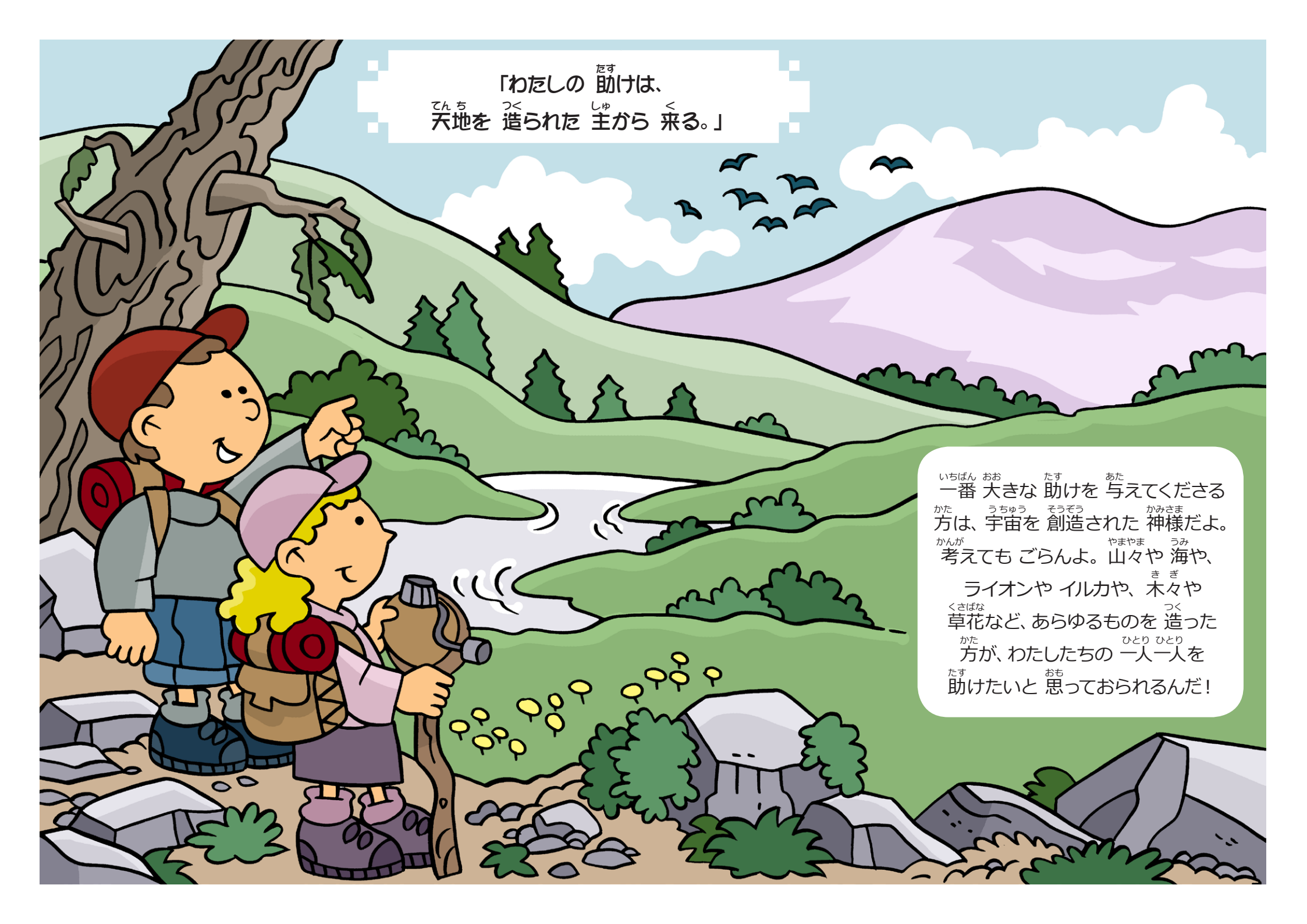


し へん ぺん 詩篇 121 篇

「わたしは ^{やま}山に ^む向かって ^め目を ^あ上げる。
わたしの ^{たす}助けは、どこから ^く来るのだろうか。」




^{たす}助けが ^{ひつよう}必要な ^{とき}時や、
^{いの}お祈りを ^{とき}する時は、だれの
^{ところ}所 ^いに行ったら いいのかな？



「わたしの^{たす}助けは、
^{てんち}天地を^{つく}造られた^{しゅ}主から^く来る。」

^{いちばん}一番^{おお}大きな^{たす}助けを^{あた}与えてくださる
^{かた}方は、^{うちゅう}宇宙を^{そうぞう}創造された^{かみさま}神様だよ。
^{かんが}考えても^{やまやま}ごらんよ。山々や^{うみ}海や、
ライオンや^{きぎ}イルカや、木々や
^{くさばな}草花など、^{つく}あらゆるものを造った
^{かた}方が、わたしたちの^{ひとりひとり}一人一人を
^{たす}助けたいと^{おも}思っておられるんだ!



「主は あなたの 足を よろけさせず、
あなたを 守る 方は、まどろむことも ない。

見よ。主の 子供である あなたを 守る 方は、
まどろむことも なく、眠ることも ない。」

かみさま いま てつだ
神様は、「今は 手伝えないよ。
やす
休まなくちゃ いけないから！
ねている あいだ お
ねている 間は、起こさないでね。」
なんて、いわれないからね。

かみさま す
神様は、いそがし過ぎて わたしたちに
かま
構っておれないなんていう ことは、
ぜったい
絶対に ないんだ。いつも きみ
君のことを
き
気に かけ、祈りに 答えたいと
ねが
願っておられるんだよ。


しゅ まも かた
「主は、あなたを 守る 方。

しゅ みぎ て かげ
主は、あなたの 右の 手をおおう 陰。

ひる ひ う
昼も、日が、あなたを 打つことが なく、

よる つき う
夜も、月が、あなたを 打つことは ない。」





かみさま きけん きみ まも
神様は、危険から君を守り、また
すく だ ひで ひるま
救い出してください。日の出ている昼間でも、
つき で よる
月の出ている夜でも、いつでも、
かみさま きみ たす
神様は君を助けることができるんだ。



「主は、すべての わざわいから、
あなたを ^{まも}守り、
あなたの ^{いのち}命を ^{まも}守られる。

主は、あなたを、行くにも
^{かえ}帰るにも、^{いま}今より
とこしえまでも ^{まも}守られる。」

神様はいつでも、君が ^{きみ}正しいことを
するのを ^{よろこ}喜んで ^{たす}助けようと
されるんだよ。自分で ^{じぶん}正しくないと
知りながらも ^しゆうわくに ^{あう}あう時は、
神様に ^{かみさま}助けを ^{たす}求めよう。神様は、
君が ^{きみ}まちがったことから ^{はな}はなれ、
正しいことを ^{ただ}する ^{ちから}力を ^{たす}くださるよ。

神様は、いつでも ^{きみ}君を ^{たす}助けて
くださるからね!